



裾野市立南小学校
学校だより No.16

学校教育目標

「共に輝く豊かな子」

重点目標キーワード

「できた！ やります！ ありがとう！」

発行日 平成30年1月29日



文責：校長 鈴木弘美

「よりよい南小をつくるために」 No.15 の続き

(2) 保護者アンケート・児童アンケートの数値集計から (別紙集計結果と合わせてご覧ください。)

◎子どもたちが、学校生活を楽しく感じていることが分かりました。

「学校が楽しい」「授業が分かりやすい」「先生がよいところをほめてくれる」等の項目の評価は、1学期も高かったのですが、さらにより結果になりました。

◎保護者からも、高く評価していただいていることが分かりました。

上記の項目に加えて、「周りの子どもたちから良い影響を受けたり学んだりしている」「周りの大人から良い影響を受けたり学んだりしている」「授業が分かりやすい」「授業の中に話し合ったり発表したりする活動が多い」「信頼できる教員がいる」「教育活動の様子や子どもの表れを分かりやすく伝えている」が、高評価でした。



◎1学期と同様、今回も、家庭での関わり・しつけの良さが分かりました。「できたことを認め励まして意欲につなげる」「相手の好意に気付いて感謝する」「返事・挨拶・整頓・清掃・時間を守る」ことが身に付くよう指導している」「差別やいじめをしない」等、家庭と学校が同じ方向を向いて指導できていることが、子どもたちのよい表れにつながっていると考えられます。

△学校では良くて、保護者には「身に付いていない」「不十分」と感じられる項目がありました。「言われなくてもできる力」「学校の中だけでない力」に育てる必要性を感じています。

(3) ご提案について

●道徳の授業の一環として、皆で映画や劇などを観て学ぶ機会がもっとあっても良いかと思います。家ではなかなか見ることのない映画などを学校で皆で見るととても心に残り、学べることもあるかと思います。例えば「火垂るの墓」や「サウンドオブミュージック」など、昔はそういう授業も結構あって、すごく印象に残っています。「泣いた赤鬼」の劇とか学校の体育館で見たものは、すごく印象に残っています。

→子どものころの観劇などの体験は、心にずっと残りますね。音楽や映像の力は大きなものがあり、教育効果も認められています。南小では、プロによる劇や演奏を目の前で観る「ほんもの体験」を毎年実施しています。来年度は道徳が教科となり、教科書の読み物資料が中心になりますが、映画や劇などを観て考える授業も検討します。(時間の確保が課題ではあります。)

● P T Aやシニアクラブ、ボランティアの方が行ってくださる活動に、子どもたちも参加して「仕事」が増えた方が良いと思います。アルミ缶回収や校庭の花壇の整備、奉仕活動時に6年生だけでなく、もっとたくさんの子どもが参加した方が良いと思います。みんなのために働くことをいろいろな場面で身に付けさせたいです。

→働く体験はとても大切です。(やってよかったな)と、働ける喜びを感じられる人に育てたいものです。学校では、毎日の清掃や係活動、委員会活動等、その一つとして指導しています。ご提案のように、学校で付けた力を発揮する場が他にもあると、力が本物になって身に付きますね。大事なことです。どのような活動が可能か、指導をどう依頼するか等々、検討します。

●通信票の学校からの欄に先生のコメントがほしいです。面談で話すということ、記入が大変だということは分かりますが、あとで見直したときに分かりません。親が面談で言われたことを書くよりも、先生からのコメントを子ども自身が読むことで認められていることほめられていることが分かり自信が付いていくと思います。

→子どものためになることなので、学校としても、できることならそうしたいのです。が、どうにも、(教員にとって)授業以外の時間が少なく、そこにこれ以上の時間を掛けることができません。「授業の準備」にできるだけ時間を使いたいのですが、現状はそれすらかきません。日頃から子どもたちの良さを認めて自信につなげることを、今後も心掛けていきますので、1学期の通信票については、どうかご理解ください。

※ 各学年・学級に関わるご意見については、来月の学年懇談会または学級懇談会で説明いたします。記名いただいた方には、個別にもお返事させていただきます。

(4) 保護者の思い (別紙に、全てのご意見を掲載しました。)

「これからの時代に生きる子どもたちにこんな力をつけてほしい。」という皆さんからのご意見の一つ一つを、(なるほど…。確かにそうだ。)と、言葉に込められた思いを想像しながら、読ませていただきました。保護者の皆さんのこれまでの人生の厚みも感じられました。

全ての方の考えを一つに絞ることはできませんが、大づかみには、下のようにまとめられます。これを、来年度の計画立案の「はじめの一步」として、実現のための歩みを進めてまいります。

- 先生方や地域の人たちに見守られて、子どもたちは生き生きと過ごしている。授業や行事を通して学び、成長した姿が見られる。今のまま楽しく通える学校であってほしい。
- 全校の子どもたちの仲が良いことや、高学年の子の積極性は、縦割り活動やペア遊び等で育まれている。南小ならではのこの良さを、これからも引き継いでいってほしい。



- 自分の道を切り拓く強さやたくましさ身に付けてほしい。
- コミュニケーション力を高め、他者を思いやりながら物事を推し進める力を付けてほしい。
- 自分と異なる立場や考え方、いろいろな個性を理解して、尊重する人であってほしい。
- 保護者ボランティアが可能なこと。(数字は人数)

英語指導補助(8)、清掃指導補助(27)、裁縫シソ補助(32)、調理実習補助(61)、水泳指導補助(10)、朝自主トレ(15)、他(書写、図画工作、音楽、校外活動付き添い、等)

※ ボランティア募集については、後日、お願いの文書をお届けします。